

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000823		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	グループホーム サンホーム青山		
所在地	兵庫県姫路市青山西2丁目17-11番地		
自己評価作成日	令和2年3月1日	評価結果市町村受理日	令和2年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「以前の暮らし」に着目し、作業療法士と介護士が共同してお一人一人に合った生活の動作を提案・工夫し役割を持った生活を送れるような「生活リハビリテーション」を提供させていただいています。また毎週「元気体操」を実施し、頭の体操や転倒予防体操などを実施しております。
 ・日常的に買い物や散歩、オレンジカフェ、仲良し広場などに出向き、地域との交流を図っています。施設行事や体操には近隣の住民の方にもお越しいただいています。
 ・医療的に不安な方も安心して自分らしい生活が送れるよう訪問診療や訪問看護ステーションとの医療連携の体制があり、看取りの対応もできる環境が整っています。
 ・より質の高いサービス提供に向け、毎月勉強会を実施し、より専門的なアプローチを行えるよう職員のスキルアップに励んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく清潔感があり、毎月制作する季節の作品や写真を飾り、プランターで野菜や花を育て、家庭的で居心地よく過ごせる環境である。日常的な外出・地域行事への参加・ホームの行事や体操への地域からの参加・ボランティアや学生の来訪等、積極的に地域と交流している。介護職員と作業療法士が共同し、利用者個々に応じた生活リハビリやレクリエーション等を通して自立支援に取り組んでいる。季節感や彩りにこだわった手作りの食事を提供し、「食」を楽しむ企画も多い。毎月の行事には家族を招待し、食事やおやつも一緒に楽しんでいる。少人数での個別外出・全体外出を企画し、個々の状況に応じて外出機会が確保できるように取り組んでいる。法人のeラーニング研修・作業療法士によるホームの勉強会・各種会議等により、職員の資質向上に取り組んでいる。訪問診療・訪問看護ステーションと連携を密にし、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	* 本評価は、緊急事態宣言により、令和2年3月実施予定を延期し、令和1年度分訪問調査として実施したものです。	

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は全職員が意識付け出来るようタイムカード横に掲示している。行動指針を掲げ日々実践に繋げている。	法人の「理念」「基本方針」を共有し、「理念」の中で地域について言及している。タイムカードの横に掲示し、法人本部が配信する動画を使用して職員研修を実施し、周知を図っている。法人の「理念」「基本方針」に基づいた事業所の「行動指針」を作成し、また、職員の目標管理の中に理念・地域・業務・自己啓発に関する個人目標を設定し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のオレンジカフェへや仲良し広場への参加や、近隣の方へ青山元気体操への参加や施設行事への参加を募り交流を図っている。日々の買い物や散歩でご近所との顔馴染みの関係が構築できている。	近隣への散歩・買い物等、日常的に地域に出かける機会を設け、地域の人と挨拶や会話を交わしている。定期的に開催される「オレンジカフェ」「仲良し広場」などの地域行事に参加し交流している。週1回開催の青山元気体操や毎月開催の事業所の行事を、地域の人に案内し参加を募っている。トライやるウィークの中学生や、音楽演奏・踊り・演芸等のボランティアの来訪もある。民生委員の地域高齢者の見守り活動に、協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェで施設紹介をおこなったり、トライアルウィークで校区の中学生の受け入れや毎週の元気体操への案内や、月1回の行事の案内をし地域の方どなたでも参加していただけるように地域に開放している。		

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、運営状況の報告や事故・ヒヤリハット、相談件数などの報告を行い、意見を頂いている。また同地区の地域密着事業所にも参加していただき意見交換や情報の共有をおこなっている。	利用者・家族・地域代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所管理者)・事業所からの参加者を構成メンバーとし、2か月に1回開催している。時には、後見人の参加もある。会議では、資料を配布し、利用者状況・運営状況・活動内容・ヒヤリハット事件事例等の報告を行い、情報共有や意見交換が活発に行われている。地域の高齢者の状況・地域の催し・他事業所の取り組み等、会議での意見や情報をサービス向上に反映できるよう取り組んでいる。運営推進会議議事録を玄関に設置し、公開している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大白書地域包括支援センターとは運営推進会議等で助言をいただいたり、地域の情報の共有が行え相談しやすい関係性の構築が行えている。行事開催時には民生委員や大白書地域包括支援センターにもお知らせし、独居老人の方や地域の方に参加を募っていただくなど協力関係が築けている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席があり、利用者・事業所の状況等を伝え、情報や助言を受け連携を図っている。市の担当課からメール等での通知や情報を受け、運営に反映させている。また、事業所の行事等に地域高齢者の参加を募ってもらい、事業所としても地域高齢者の見守り活動に協力する等、地域包括支援センター・民生委員と協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・権利擁護・高齢者虐待防止の研修を年2回必ず実施している。また、身体拘束廃止適正化委員会を通じて職員皆で身体拘束についての話し合いの場を設けている。	「身体拘束適正化のための指針」と「身体拘束マニュアル」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。身体拘束等適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を行っている。「利用者の生活実態を確認するためのポイント」のチェックリストを活用してケアの振り返りを行ったり、スピーチロックについて確認する等、適正化に向け取り組んでいる。法人共通のeラーニングを活用した資料研修で、年に2回「身体拘束」に関する研修を実施し、研修レポート提出により全職員に周知を図っている。玄関は開錠に操作が必要であるが、外出の意向があれば速やかに職員が対応し閉塞感を感じないように支援している。	委員会の内容の職員周知が明確になる工夫が望まれます。	

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて十分に理解出来ている。無意識にスピーチロックを行っていないかなど接遇面でも職員に周知徹底行っている。	高齢者虐待防止に関してもマニュアルを整備し、上記と同様の方法で年1回「高齢者虐待防止」に関する研修を実施している。「利用者の生活実態を確認するためのポイント」のチェックリストの活用や「権利擁護」「認知症」についての研修を通して、職員の意識向上に努め、言葉遣いや対応について注意喚起している。法人としてストレスチェックの実施、相談窓口の設置、また、事業所としても管理者が定期的・随時の面談を行う等、職員のストレス等が、ケアに影響しないように取り組んでいる。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護の研修時に日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。運営推進会議に後見人の参加もあり、認知症高齢者への支援の方策として有効である事の理解が出来ている。	「権利擁護に関する制度」についても研修を実施している。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、金銭管理や生活状況の報告など制度利用を支援している。また、時には運営推進会議に後見人の出席があり、連携している。今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり関係機関と連携して支援できる体制がある。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所見学いただき、契約前より十分な説明を行い契約時には関連書類を丁寧に説明し、理解いただいている。契約後も不明な点に関して随時説明行っている。	入居希望があれば見学を勧め、館内を案内しパンフレットを用いて説明をしている。契約時には、契約書・重要事項説明書・各種指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。説明の際は、地域密着型事業としての取り組みや、重度化・看取り対応等についてわかりやすく説明するよう配慮している。契約内容に改定がある場合は、改定部分を文書で説明し、文書で同意を得るようにしている。		

グループホーム サンホーム青山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議等に家族様に参加いただき意見を聴き、意見に関し全職員が共有し、改善策を講じている。また面会時や行事参加時などに必ず職員から家族様に日頃の様子や報告等を行い、意見を伺うようにしている。	家族の面会時、電話連絡の際等に近況を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月「青山元気だより」を郵送し、フロアに行事や生活の様子や写真を掲示し、毎月の行事に家族を招待する等、家族が意見・要望が出やすいように取り組んでいる。意見箱も設置している。出された意見は、管理者が集約して職員に周知し、食事・外出・活動等に反映している。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、外部者に意見を表す機会も設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットミーティングで運営に関する意見や課題があれば、月1回のフロアミーティングにて検討し、反映に活かしている。	月に1回のユニットミーティングで、利用者についてのカンファレンスと各ユニットの業務等についての検討を行い、職員の意見・提案をケアや業務に反映している。ユニット合同のフロアミーティングも月に1回行い、業務改善や事業所の取り組み等について、職員の意見・提案を反映している。管理者が人事考課面接を年2回、個別面談を随時行い、個別に意見等を聞く機会を設けている。管理者・正職員とエリア長との日々のメール連絡、エリア会議等、職員の意見・提案を上位者に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員は目標カード、人事考課表などを用いて年2回目標が達成できたかどうか本人を交えてフィードバックしながら評価を行っている。評価が給与に反映され向上心をもって働けるような環境・条件に努めている。パート職員についても管理者と一緒に目標を定め向上心を持って業務に取り組んでいる。		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での処遇改善加算研修とサンホーム青山独自の認知症ケアに関する勉強会を毎月実施している。法人でも資格取得に向けた講習会も実施されており、資格取得に役立つ職員のスキルアップに役立っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	双方の運営推進会議の参加や地域のオレンジカフェへの参加などで、地域内の同業者との交流が図れており、互いの情報の共有や意見交換の機会になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と入居前面談を行い、話を傾聴し、共感することで相談しやすい関係づくりに努めている。また、以前の暮らしに着目し、その人らしく過ごしていただけるよう家族様に協力いただきお元気なころの暮らしの様子などを事前に記入いただいている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるにあたっての不安や要望などを聴き、可能な限り答えられるようにしている。ご本人の想いや家族様の想い、希望などをサービスに取り入れるため、センター方式に添ったアセスメント書類に記入いただいている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク段階で、生活機能やコスト面も含めグループホームが最適なサービスであるか判断し、法人内外問わず、他サービス利用紹介、調整行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活の観点から可能な限り、利用者様の生活歴や残存機能、経験を生かしたその人の役割として出来る事を日課として職員と協力して一緒に行っていただいている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の行事の案内を行い、行事内のゲームの参加や行事中の話し相手や見守りなど家族様にもご協力いただき行事を一緒に支えて頂いている。また日常生活においても小まめに面会にきてくださり、助言いただくことで、よりその人の意向に添ったサービスの提供に繋がっている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活習慣や個人史の聴き取りにより、人間関係や馴染みのある場所について情報収集に努めている。また友人来訪時など、公共機関の時刻案内や車の手配、電話連絡など訪問していただきやすいよう努めている。	馴染みの人や場所についての情報は、入居時は家族記入のセンター方式のアセスメントシートから、入居後はセンター方式の「心身の情報シート」等に職員が記入し把握している。家族や親戚の他、友人・知人の面会があり、居室・フロア・地域交流スペース等の好みの場所で交流できるように支援している。公共機関の時刻案内や車の手配など来訪しやすいよう配慮している。散歩・買い物・ドライブ・外出行事が、馴染みの場所との関係継続になる場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置や買い物や散歩、地域サロンの参加、行事に向けての作品作りを共同で行うなど利用者様同士が関わり支え合えるよう工夫し、その時々に応じた対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、ご逝去以外の退居ケースは発生していないが、家族様にはいつでも相談して頂けるようお伝えしている。行事や体操への参加も参加いただくよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聴き取りや、日々の言動やしぐさ会話の内容、家族様からの情報で想いを汲みとるよう努めている。定期的にケースカンファレンスを実施し状態の把握・情報の共有を行い、ご本人の想いに添えるよう情報を共有し、話し合っている。	入居時には、面談や家族記入のセンター方式のアセスメントシートで思いや意向の把握に努めている。入居後に日々のコミュニケーション等から把握した内容は、カンファレンス等で共有し、支援や介護計画に反映できるよう取り組んでいる。担当職員がセンター方式の「心身の情報シート」にも記入し、シートを定期的に更新している。把握が困難な場合は、表情やしぐさ等から汲み取ったり、家族からの意見や以前の情報等を参考に把握に努めている。	

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時での聞き取りや、契約時に生活歴、趣味習慣についての記載シートを家族様に依頼しご本人や家族様からも日々の会話などから把握に努めるようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作業療法士と介護士が共同で生活の様々な場面に携わり、生活動作や趣味活動に密着したアプローチを行い情報を共有し、介護に展開している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様のご意向やご意見、多職種の情報から介護計画を作成しており、定期的にケースカンファレンスを実施している。	入居時に、「面接記録」「基本情報」「認知症スケール」「センター方式アセスメントシート(家族記入)」等をもと「施設サービス計画書」を作成している。サービス内容毎に実施状況を毎日記録する「モニタリング結果」に記録することにより、計画内容の周知を図っている。日々の実施状況を、「モニタリング結果」「個人記録」「支援経過」等に記録し、毎月の各ユニットミーティングで利用者個々について、意見・情報交換している。3か月に1回、計画作成担当者が「モニタリング総括表」でモニタリング・評価を行い、定期的には6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。見直しの際は、介護職員・作業療法士による「ケアプラン導入シート」、センター方式の再アセスメント、モニタリング・評価結果をもとに「検討会議」で検討し、「施設サービス計画書」の原案を作成している。基本的には利用者・家族参加で担当者会議を開催し、原案をもとに検討を行っている。主治医など関係者の意見・助言は「支援経過」に記録し、反映している。	サービス計画の作成・見直しは、職員参画の下、利用者・家族の意向や関係者の意見を反映し、たいへん丁寧に実施されている。「検討会議」での検討課程と計画の見直し内容の連動性が明確になると、PDCAサイクルがさらに明確になるのではないかと。また、主治医など関係者の意見も、担当者会議録に一元的に記録してはどうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルへの記録、介護支援経過に日々の様子を記録し、職員間で情報共有し工夫を行っている。ケースカンファレンス時にケア方法を決め介護計画に活かしている。		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の様々な情報収集を行い、本人様、家族様のご要望に添えるサービスを提供したり、取り入れたり柔軟に対応している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民として、オレンジカフェや仲良し広場などへ参加して頂いている。また、日々の近隣スーパーへの買い物や散歩などで近所の方々に挨拶をし、顔馴染みの関係の構築を図っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医(訪問診療・訪問歯科・訪問薬局)がある事をお伝えし、説明した上でご本人様・ご家族様が納得した医療が受けられるよう選択して頂いている。	協力医療機関から月2回訪問診療(外科・内科)、希望に応じて訪問歯科が受けられる体制がある。契約時に説明し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。往診の際は「往診前連絡表」で事前に情報提供し、診療結果は「訪問診療報告書」に記録している。訪問看護は週2回の訪問があり「訪問看護報告書」に記録し、24時間連携体制がある。「受診健康管理記録」で医師・看護師・事業所が情報を共有し連携している。医療についての記録は、「支援経過記録」にも記録している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の定期訪問以外にも、相談・報告を行っている。また24時間連絡体制が整っており、連携が図れている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と連携を密にし、病院に出向き回復状況の把握に努めている。病院のソーシャルワーカーとも情報交換に努めており、退院後のホームでの生活に不具合が出ないように努めている。	入院時は、主に管理者が同行して口頭で説明し、「基本情報」「薬手帳」等で情報提供している。入院中は、家族と連携を密にし、管理者やケアマネジャーが面会に行き、病院の看護師・地域医療連携室に状態確認し、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスがあれば管理者・ケアマネジャー・作業療法士が参加し、その情報を基に介護計画の見直しや退院後の生活に向けた環境整備を行っている。経過は支援経過記録に記録している。	

グループホーム サンホーム青山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、入居時に方針を説明し意向を伺っている。入居者様の心身状況の適切なタイミングでご本人やご家族様のご意向を確認する機会を設け、主治医や訪問看護事業所との連携をより密に図りホームでの看取りを望まれる方への体制を整備している。	契約時に、「看取り介護に関する指針・重度化した場合の対応に係る指針」を用いて事業所の方針を説明し、意向を確認している。重度化を迎えた段階で、主治医が家族に説明を行い、事業所も「重度化及び看取り介護に関する同意書」「終末期における確認事項」で再度説明し、看取りの介護計画を作成し同意を得ている。主治医や訪問看護師との連携を密にし、喀痰吸引の資格取得・ターミナル研修の実施など、希望に応じて看取り介護に対応できる体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内・施設内において緊急時対応の研修・勉強会で心肺蘇生やAEDの使用方法なども実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例(年2回)の通報・避難訓練・消防点検を実施している。入居者様には要援護者台帳に登録し地域で把握出来ている。	年2回(昼間・夜間想定)消防訓練を、総合訓練(消火・避難・通報)の内容で実施し、設備業者立ち会いのもと、入居者も参加して実施している。年1回はAEDの使用法・心肺蘇生法の研修を実施している。法人共通の研修で、「非常災害時の対応」研修も実施している。入居者は要援護者台帳に登録し、地域の消防団等で把握してもらっており、地域の消防訓練には今後参加予定である。職員の緊急時連絡網や緊急時の対応方法が整備されている。備蓄品は、2階に水や食料を常温・冷蔵・冷凍に分けて保存しており、交代制の調理担当者がその都度確認している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内での接遇研修やプライバシー保護研修を実施し、全職員が入居者様の尊厳を第一に考え、自尊心・羞恥心に十分配慮しながら、声掛けや対応を行っている。	誇りやプライバシーを損ねない言葉や対応について、「接遇」「プライバシー保護」「認知症」についての法人共通の研修や、作業療法士による事業所独自の勉強会で、学ぶ機会を数多く設け周知を図っている。また、気になる言葉かけ等があれば、管理者層から適宜注意喚起している。個人情報に関わる書類等は鍵付きの書庫での保管し、写真の使用については、個人情報使用同意書で説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様ひとりひとりの出来る事や出来ないけどしたい事、出来るけどしたくない事など情報収集での把握とともに日常的なコミュニケーションの中でのしぐさや何気ない一言などから想いを汲み取り、実施に繋げられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にするのではなくその人その人のリズムに合わせてその人の興味のある事や、経験、希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容など依頼し、外出しにくい方にも楽しんでいただいている。また更衣時にご本人と一緒に着替えの用意を行い、好みの服を選んでいただき身だしなみを整えている。衣服の汚れや綻びがあればできる範囲で修繕したり、家族様に依頼し整容面に気をつけている。		

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		(19)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>定期的に食事調査アンケートを実施し、嗜好調査を行い、希望に添うようにしている。食事の準備や調理、片付けを一緒に行い、食事も職員と利用者様と一緒に食べ、コミュニケーションを図っている。</p>	<p>献立作り・買い物・手作りの調理を継続している。利用者の好みや季節感・行事食を取り入れた献立を立て、週3回買い物の日を設定し、利用者と一緒に食材の購入に出かけている。利用者の希望や力量に応じて、調理や後片付けに参加できるよう支援している。食事アンケートを定期的に聞き取りで実施し、利用者の希望を献立等に反映している。職員も一緒に同じ食事をとり、家庭的な雰囲気ですべて食卓を囲んでいる。毎月の行事に家族を招待し、イベント食とおやつ作りを、家族と一緒に楽しめるように企画している。</p>	
41			<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分摂取量は必ず記録し確認している。献立も栄養バランスを考えて立てている。食欲がない時や体調不良の日などその日のメニューにとらわれず、食事形態の調整や食べれる物、食べたい物、栄養補助食品の提供や水分摂取が苦手な方には水分補給飲料をゼリーにするなど工夫している。</p>	/	
42			<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアのセッティング、声掛け、見守りを行い実施。歯磨きが困難な方は口腔用ウェットティッシュや口腔用ガーゼで拭きとりを行っている。口腔環境を確認し、必要に応じて家族様に歯科受診の依頼や受診困難な方には歯科往診を依頼していただき口腔内の清潔の保持、不具合に改善を行っている。</p>	/	

グループホーム サンホーム青山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意が上手く訴えられない方などは、その方の排泄のパターンの把握に努めたり、サインを見逃さないよう職員は意識し羞恥心に留意しながらトイレへ誘導している。失敗回数が減ることでその方の羞恥心や焦燥感の軽減に繋がっている。	排泄の自立度について、自立からベッド上でのオムツ交換まで個人差が大きい状況である。排泄チェック表や利用者の行動パターンから個々の排泄パターンを把握し、個別に合わせた排泄介助を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。状態の変化に応じて、日々の申し送りやカンファレンスで、介助方法や排泄用品の使用等について検討し、現状に即した支援に反映させている。声かけや介助時のプライバシー・羞恥心への配慮について、注意喚起し周知している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や週1回の体操、買い物やレクリエーションなどで運動の機会を提供し、食物繊維の多い食事やヨーグルト、果物を提供している。排泄表にて滞便を管理し、必要に応じて主治医に相談、内服の調整をしている。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めず、本人のご意向やタイミングに合わせて声掛けしご自身のペースで入浴して頂いている。清拭なども希望に添って行っている。	週2回以上の入浴を基本とし、利用者個々の希望・タイミングを尊重し、曜日・時間を決めずに実施している。ユニットの個浴槽で、一人ずつ湯を交換をし、自身のペースでゆっくり入浴できるように支援している。リフトの設置があり、状態に合わせて使用している。希望に応じて同性介助で対応し、入浴を好まない利用者にはタイミングや声かけを工夫したり、清拭で対応する等、個別の対応を行っている。ゆず湯・アロマ・入浴剤等、入浴を楽しむ工夫も行っている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は消灯時間は決めず、その方の生活習慣に合わせて休んでいただいている。昼夜逆転傾向にある方には日中の活動量を増やしたり、夜間不穏時には傾聴したり温かい飲み物を提供するなど安心感を得られるよう支援している。		

グループホーム サンホーム青山

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬剤情報を管理し、把握に努めている。内服薬の変更があった場合、体調にお変わりがないかの観察を行い、訪問看護師や主治医に報告を行い主治医の指示を仰いでいる。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式でアセスメントを実施。その方の生活歴や興味のある事の把握に努め、その方の日課や役割の提供、その方にとって意味のあるアクティビティーを提供し、張りのある生活が送れるよう支援している		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩、スーパーやドラッグストアなどへの買いもの、フードコートでのおやつタイムなどちょっとそこまですを気軽に行っている。また毎月の行事以外にもプラネタリウムや紫陽花見学、海までドライブ、桜やコスモス畑や芝桜鑑賞など季節感が味わえるよう希望を伺い個別での外出の機会を設けている	日常的な外出として、散歩・買い物・喫茶など、地域に出かける機会を多く持てるよう取り組んでいる。「オレンジカフェ」「仲良し広場」などの地域行事にも参加している。個別・グループでの年間外出計画を立て、桜・あじさい・コスモス・芝桜等の季節の花の鑑賞・プラネタリウム見学・海へのドライブ等、外出支援に積極的に取り組んでいる。初詣・花見・紅葉狩りは、合同外出として行っている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は預かり金として金庫で保管しているが、個人的な買い物はご本人と職員と一緒に出掛け、ご自身で精算できるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みがある方は自由にお電話されています。家族様が希望される方はこちらからお電話し会話が出来よう支援している。年賀状は職員で作成して送っているため、今後は字が書けない方などはスタンプを押していただくなど工夫し暑中見舞いや年賀状を送る支援を行う		

グループホーム サンホーム青山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に毎月職員と利用者様で作成した季節の壁飾りを貼ったり、外出や行事の時の写真を壁に貼り、目でも楽しめる工夫をしている。	各ユニットに、共用スペース・キッチン・浴室・トイレがあり、廊下も含め、車イスでの移動にも十分なスペースが確保されている。テーブル席・テレビ前のソファ席・畳のスペース、1階には地域交流スペースもあり、思い思いに居心地よく過ごせる環境である。利用者と一緒に毎月制作する季節感のある作品や、外出や行事の写真が飾られ、季節感や生活感が感じられる。利用者は、体操、歌、編み物、かるた、調理・掃除・洗濯等の家事等、共用スペースで好みの活動に参加している。1階・2階のユニット間の行き来は自由になっており、利用者の交流にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のソアーや地域交流スペース、食事の席など思い思いの場所で気の合った方同士過ごされている。ユニット間も自由に行き来され、お一人お一人が過ごしたい場所で過ごされている	/	/
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの置物や思い出の写真を飾ったり、愛着のある物を家族様に持ってきていただいたり、居室に丁目、番地をつけ自宅のようにご本人が安心でき居心地の良い空間づくりに配慮している。	各居室は、窓が大きく自然光・調光とともに明るく、清潔感がある。たんす・ベッド・壁掛けの鏡等が設置され、利用者が好みの色を選んだカーテンが掛けられている。テレビ・家具・写真・置き物等の馴染みの物や使い慣れた物の持ち込みを勧め、居心地よく過ごせるように支援している。居室を番地表記にし、自宅の雰囲気が出せるようにも工夫している。利用者の状況・動線に応じて家具の配置を工夫し、居室での安全で自立した生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所・居室やトイレが分かりやすいよう表示し手すりを設置している。トイレも座位が不安定な方がしっかり座って排泄できるよう跳ね上げ式のレストテーブルを設置し、自立した生活が送れるように工夫している。	/	/